2023.6.22

藤沢市居宅介護支援事業所連絡協議会　講演会

「包括崩壊？！その時ケアマネは！」

合同会社地域包括ケアステーション
大磯町西部地域包括支援センター
センター長　岩本　朋子

自己紹介

岩本　朋子（いわもと　ともこ）

合同会社地域包括ケアステーション
大磯町西部地域包括支援センター　センター長
主任介護支援専門員、社会福祉士、介護福祉士

特別養護老人ホームケアワーカー、介護老人保健施設支援相談員、居宅介護支援事業所ケアマネジャーを経て、平成１８年社会福祉法人大磯町社会福祉協議会に入職。入職後、地域包括支援センター担当となり、平成23年より同センター・センター長に就任。令和３年まで１５年間地域包括支援センター業務に従事した。
令和３年８月、居宅介護支援事業所「くらしの相談ステーションおおいそ」を開設。管理者として従事。
令和５年４月大磯町西部地域包括支援センターを町より受託。

大磯町の概要

- 面積　　１７．２３平方㎞
- 総人口　　３１，４６１人
- 高齢者人口　１０，９１１人
- 高齢化率　　３４，６８％

（令和４年１月１日現在）

- 「湘南」という名称の発祥の地（諸説ありますが…）
- １８８５年日本初の海水浴場が開かれたところ
- 神奈川県中央南部に位置し、丘陵部が６５％を占める一方、海岸沿いに流れる暖流の影響で温暖な気候
- 町議会議員の女性の割合が高い（１３名中６名が女性）

大磯町の特徴・特性

- 町の６５％を丘陵部が占めている
- 気候は温暖
- 地元を大事にしている

- 医師会の先生方との距離が非常に近い
- 総合病院とのコンタクトが取りやすい
- 医師と介護従事者が協働する場面が多い

- 大磯で活動している介護支援専門員の
  ３分の１が主任介護支援専門員

特徴的な課題

１．システム化への取り組み

⇒　医師と介護従事者の距離感は非常に近いが、システム化されたものではなく、個人のネットワーク（人脈）によるものが多い

⇒　地域住民を加えた形でのシステムの未整備

２．統合への取り組み

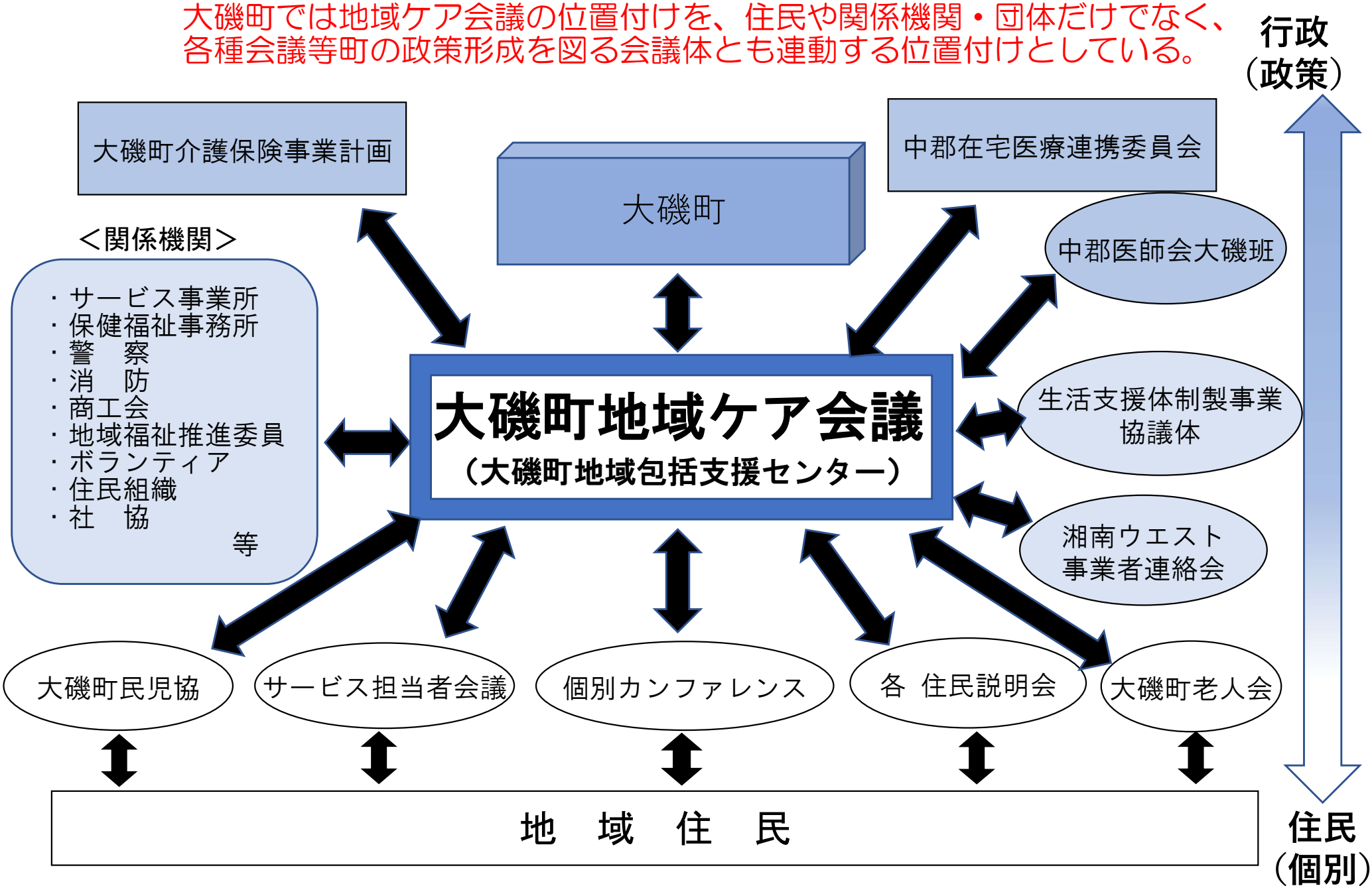
⇒　規範的統合の未確立

⇒　地域住民を巻き込んだ形での統合の未整備

⇒　それぞれの「役割の明確化」が図れていない

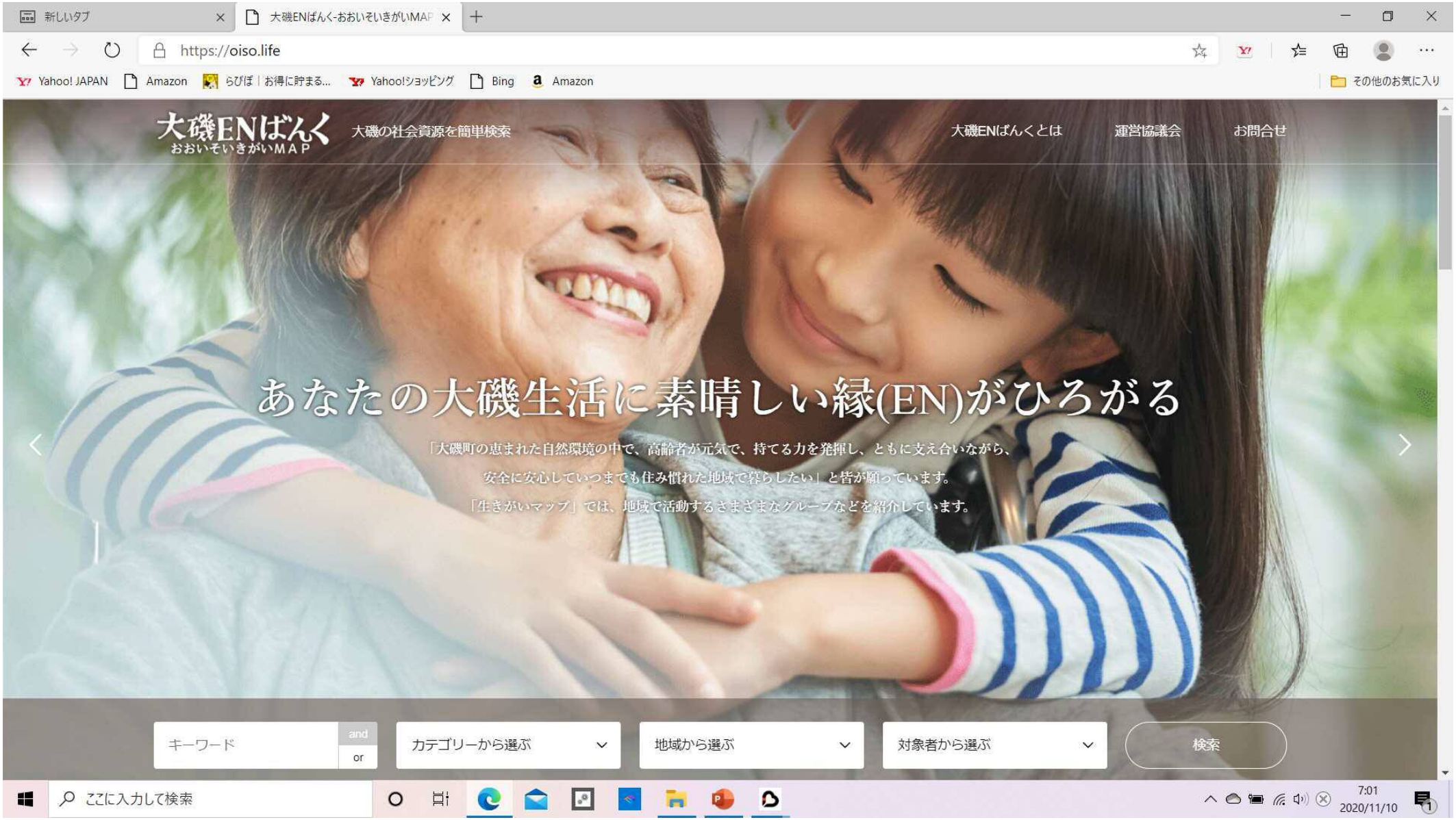
大磯町地域ケア会議の位置付け（図）

大磯町では地域ケア会議の位置付けを、住民や関係機関・団体だけでなく、
各種会議等町の政策形成を図る会議体とも連動する位置付けとしている。



協議体での情報提供例（住民目線での情報提供）

～地域ケア会議での意見を協議体へ反映～



作成：木内健太郎

そんな中・・・令和３年３月

大磯町　包括支援センター職員の退職相次ぐ　利用者ら懸念

福祉　介護　医療　早期退職

政治・行政 | 神奈川新聞 | 2021年5月8日(土) 21:30

大磯町地域包括支援センターの担当職員が、３月
していることが８日までに分かった。同センターを
に職員を充てて対応しているが、利用者や介護事業

包括支援センターまた１人退職　大磯町長「指導しなければ」

福祉　介護　医療

政治・行政 | 神奈川新聞 | 2021年6月8日(火) 21:50

大磯町地域包括支援センターの担当職員が相次いで退職している問題で、５月中に新たに少なくとも職員１人が退職していたことが８日までに、関係者への取材で分かった。

同町の中﨑久雄町長は同日の町議会６月定例会本会議で、「…

大磯町議会で社協巡る質問相次ぐ　支援センター職員退職で

社会福祉協議会　高齢者　介護

政治・行政 | 神奈川新聞 | 2022年6月10日(金) 05:00

大磯町議会６月定例会本会議で９日、一般質問が行われ、町地域包括支援センターを運営する町社会福祉協議会に関連した質問が相次いだ。昨年、同センターの非常勤職員の雇用契約内容の変更を巡って担当職員と社協側が対立し、…

何よりありがたかったのは、
ネットワークの支え

そしてケアマネの力！！

事業所の紹介

くらしの相談ステーション おおいそ

- ■法人名は「合同会社地域包括ケアステーション」
- ■令和３年８月設立
- ■もともと地域包括支援センターに勤務していた６名で構成
- ■現在、主任介護支援専門員３名、社会福祉士３名、保健師１名、看護師１名で従事（資格重複有）
- ■サービス提供地域は、大磯町・二宮町・平塚市・中井町・秦野市小田原市
- ■特徴は、内科クリニックの２階に事務所を設けているので、医師との繋がりが強い
- ■介護保険認定前からの相談が多く、総合相談としての動きが多い

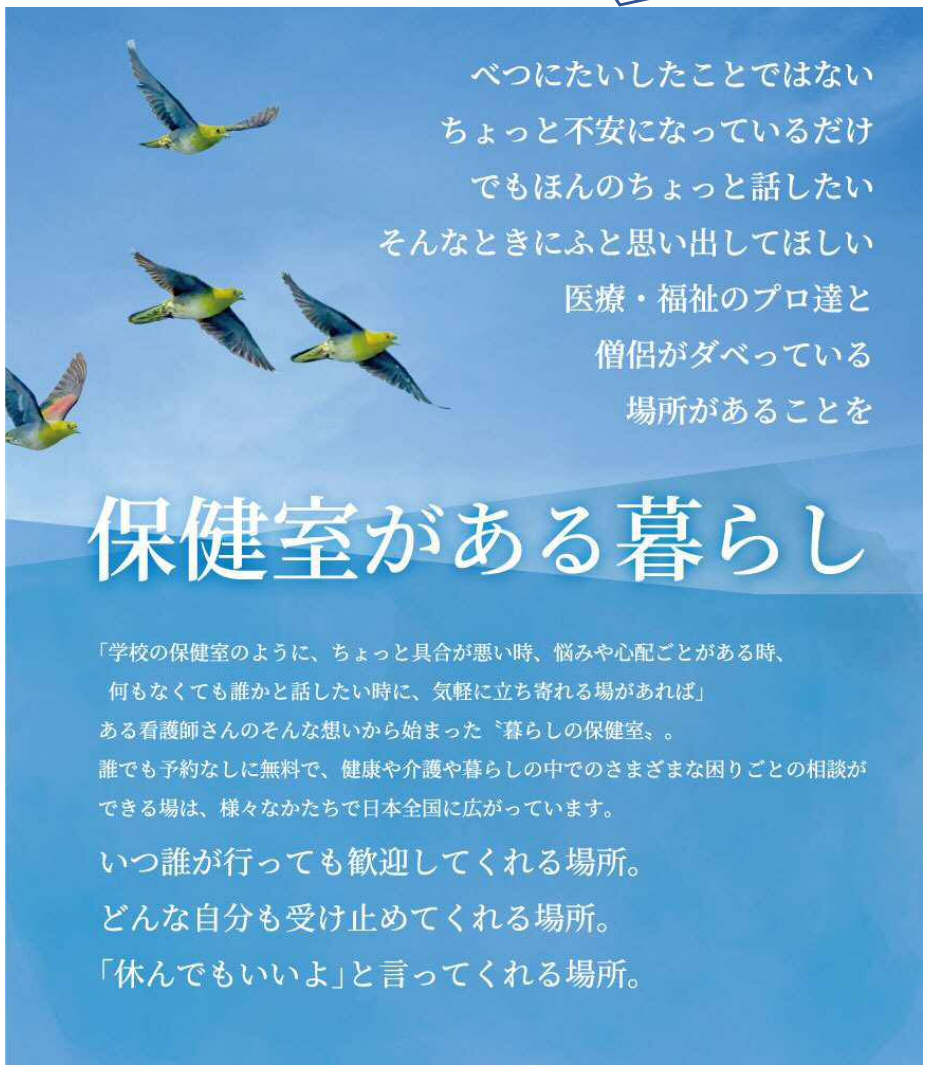
くらしの保健室“安養”とは？

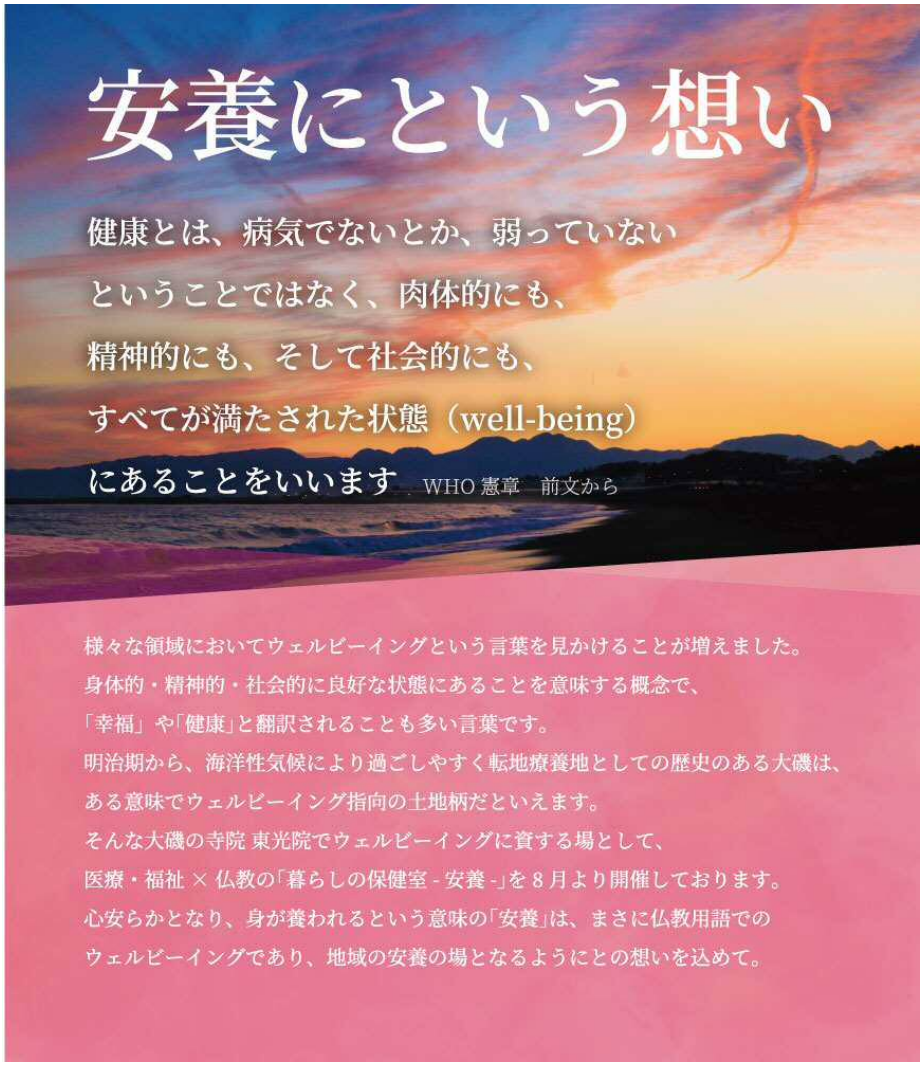
暮らしの保健室“安養”

■いち民間中小企業で実施の保健室事業
■行政等からの補助金一切なし
■公共施設等の活用はなく、町内にある“お寺”で実施（お寺の本堂の半地下にあるフリースペースで実施）
■フリースペースには、ご年配の方々から町外からの観光客、下校時の小・中・高校生などが同じ空間に存在！
■予約等も一切なく、フリースペースに来て何もしなくても良い！相談なくただこの空間を共有して帰られる方もいます
■異職種の面々が集まる場！！

くらしの保健室“安養”に込めた想い

“相談”をもっと身近なものに！！





住民の方々が気軽に呟ける場所を…
という願いを表現した保健室です

専門職の面々も集まる
“夜の保健室”
職域や職場の垣根を越えて、本気で
未来を語る場所となっています！！

神奈川新聞　2022年（令和4年）11月9日 水曜日

民間が起こす新風

分岐点 '22大磯町長選 ㊦

高齢者福祉

■福祉×仏教

大磯海岸にほど近い東光院（大磯町大磯）には、約1400冊の図書が読める仏教図書館を備え、子どもから大人まで集うフリースペースがある。この場所で8月から、医療や介護、生活の相談などを無料で受け付ける「暮らしの保健室〜安養〜」が始まった。

同院と居宅介護支援事業所「くらしの相談ステーションおおいそ」（同町国府新宿）が連携。地域の僧侶と医療・福祉職の専門スタッフが手を組む福祉サービスが新風を注いでいる。

昨年、町地域包括支援センターの職員が大量流出し、町を揺るがす一大事が起きた。同センターは町の業務委託で町社会福祉協議会が運営しているが、非常勤職員の雇用契約内容の変更を巡って担当職員と社協側が対立。非常勤職員を擁護した正規職員2人に解雇予告が通知され、7人全員が同3月末に退職した。

同8月、退職者のうち6人で独立し、くらしの相談ステーションを開所。介護支援専門員、保健師、看護師、社会福祉士の資格を持ち、地域を熟知する専門集団だ。同センターの混乱からか皮肉にも「どこに相談していいか分からない」と助けを求めて訪れる利用者が後を絶たないという。

寺のフリースペースを活用して始めた暮らしの保健室＝大磯町大磯の東光院

◆大磯町の高齢者福祉　大磯町の介護保険サービス利用状況は2022年度に過去最多の4万6549件。第8期同町高齢者福祉計画・介護保険事業計画によると、2025年に高齢化率は37.8%、40年に45.4%と推計され、要介護・要支援認定者数は25年で2077人となる。第8期計画では地域包括ケアシステムの推進を引き続き目指し、高齢者が住み慣れた地域で適切なサービスを受けられるよう町全域を日常的生活圏域に設定。独り暮らしの高齢者世帯や認知症の人の増加も見込まれ、介護サービスの需要がさらに増加、多様化するとともに介護人材確保の課題も抱える。

暮らしの保健室は月2回行われ、実施日以外は同院住職の大澤暁空さん(37)と寺務・執事の古井昇空さん(42)が対応。同ステーション管理者の岩本朋子さんは「本来はこういう機能を持つのが包括支援センターだが、それが果たせていない」と指摘し、古井さんは「同じ危機感を共有する業者がいるのだから、動ける時に民間で一緒にやるということ」と歩み出した。

■大磯モデル

東光院では寺で葬儀も請け負う。ひつぎなど葬儀費用は全て原価で提供され、葬儀社が関わらないため安価に抑えられる。葬儀代の捻出に困る高齢者が泣いて喜ぶこともあったという。

団塊世代の800万人が75歳以上になる超高齢化社会「2025年問題」は目の前だ。町でも独居高齢者が増加しており「お骨の引き取り手がなく、保証人は誰がなるのか。そういう時代はもう始まっている」と古井さんは警鐘を鳴らす。

町の地域包括ケアシステムの中核を担う地域包括支援センターは社協に丸投げ状態で、人材不足を含め在宅福祉サービスも充実しているとは言い難い。くらしの相談ステーション代表の木内健太郎さんは「（利用者を）自分の事業所で見切れず他の事業所に回したりオール大磯で手を携えてやってきたが、被害を受けるのは町民。行政は手を付けるべきだ」と強調する。

計画的な医療・福祉で支える木内さんは「高齢者福祉に携わる者は死を意識しなければならないのに、死はタブーだった」と振り返る。「相談を受ければ線引きはしないし、亡くなった後まで関わる」（古井さん）と人の死と日常的に向き合う寺との出会いで、新たな化学反応が起きている。

住職の大澤さんは「一昔前だったら、今で言うちょっとしたおせっかいで地域は成り立っていた。われわれはそれを今やっている」と言い、木内さんも「新しい大磯モデルみたいなものを発信したい」と話している。（織田 匠）

暮らしの保健室“安養”が神奈川新聞に載りました！

暮らしの保健室“安養”には、毎回新しい相談者が来てくださいます。

前述のパンフレットを見てきてくださる方やお寺の前に立てた看板を見て何気なく寄っていただく方もいらっしゃいます。

自分たちで出来る事を一歩ずつ！！

令和5年度からの大磯町地域包括支援センター

東部部地域包括支援センター
町立福祉センターさざれ石内

委託者　社会福祉法人伸生会

西部地域包括支援センター
横溝千鶴子記念障害福祉センター内

委託者　合同会社地域包括
ケアステーション

神奈川県全域・東京多摩地域の地域情報紙

タウンニュース

会社案内 IR情報

ホーム 横浜 川崎 相模原・東京多摩 県央

大磯・二宮・中井版 公開：2023年5月12日

大磯町

医療 福祉を生活の延長に

東光院で「暮らしの保健室」

社会

東光院（大澤暁空住職・大磯町大磯１５２５）で毎月２回、誰でも予約なしに無料で健康や介護について専門職に話せる場所「暮らしの保健室・安養」を開催している。第２火曜日と第４土曜日の午前10時～午後５時。第４土曜日のみ午後５時～９時の「夜の保健室」も実施。

（左から）「暮らしの保健室」を運営する木内さん、岩本さん、古井副住職

暮らしの保健室とは、２０１１年に訪問看護師の秋山正子さんが都営戸山ハイツ（東京都新宿区）に開設して以来、全国的に広がりを見せている地域に根差した医療、介護支援のかたち。東光院では、合同会社[タイトルなし]アステーションの木内健太郎代表

２０２３年５月１２日

タウンニュースに掲載されました。

第４土曜日の“夜の保健室”の際、取材を受けました。

“夜の保健室”には住民の皆さん、ボランティア団体、ケアマネ、包括、介護事業所、リハ職などが集まります。

相談からつながる地域づくりへ・・・

この２年間で見えたもの・そして目指すこと

- ピンチの時の頼り、そしてありがたかったのは、地域のネットワーク(町民、多職種多機関、行政)
  →平時からの繋がりが有事を救ってくれる

- 地元「大磯」のケアマネジャーの温かさ、そして強さ

- 「相談」が地域をつなぐこと。相談を身近に感じていただく場づくりの大切さ
  →相談は必ずしも公的機関でなくてもできる

ともに支えあえる(町民もや多職種も)町づくりの一助になれることを目指して！！

ご清聴、ありがとうございました！